二十三日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓拾
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

手術の心理【上】

醫學博士 高島令三

私は外科を専門としてゐる醫者であります。毎日澤山の手術をし、患者の病氣を治して居ります。手術の技も、以前とは違つて近來は長足の進歩をし、胃の大部分を切り取つたり、腸を何尺も切除したり、或ひは頭蓋骨に穴をあけて腦に然るべき手術を施したり、實に昔のひとが夢想だにしなかつた放れ業をやつて、本來ならば當然死ぬ運命の病人に再び全快の歡びを與へるようになつたのであります。このことは、勿論外科許りでなく、他の科にもそれ〴〵手術以外の療法で云ひ得る事柄であります。昔支那の詩人の句に起死回生、即ち死ぬべき者を救ひ生命を與へると云ふのがありまして、この意味は、こんなことが出來たら嘸よいだらうといふ理想を表したもので、名醫を喩へるような場合に用ゐられたのですが、現今吾等は前述の如き大手術等により、ほんとうに起死回生をやつてゐる次第であります。

ところが、斯くの如き大手術は、勿論一方非常なる危險を伴ふことは詮方ありません。吾等は全力を盡して最善を行ふのであるが、何分にもやることが大變なのであるから、十人に一人や二人は惡結果を招くことは是非もありません。

さて、我等が患者並びにその家族に向つて、以上の如き大手術の必要を説き、もはやこの方法以外には途無しと宣言した場合、患者側の出様には、大體二通りあるやうです。第一のものは、患者も家族も、心をあはせて全幅の信頼を私達に寄せ、全くお任せしましたから、どうぞ充分にお願します。その上、若しものことがあつたとしても、文句どころか、やるだけのことはやつて戴いたのだから本望ですといふ風に、すべてを我等の技術に委ね、その上は泰然と天命をまつといふ態度であります。ところが、第二のものは、これとはよほど違ひまして、手術をやることの正しいことはよくわかつても、更に進んで全幅の信頼を寄せて、これを受ける勇氣に不足し、家族への吾等が手術の直前まで、うるさく大丈夫でせうか、手術後直ぐ駄目になつたりしないでせうか。本人は大變手術を恐がつてゐますが、何ともないでせうか、果ては何とか手術をせずにすむ工夫は無いでせうか、等と愚痴ともつかず不平ともつかぬようなことを、頻りに云つてくるのであります。その心理は吾等にもよくわかるのであつて、決して惡いといふのではないが、第一の場合に比べると甚だしく劣るように思ふのであります。即ち甚だ執着が強いといふことが出來ます。吾等は佛教で執着といふことが大變よくないと敎へられて居ります。斯ういふ執着の強い患者並びに家族はきまつて利己主義で、文句が多く、嫉妬も強く、邪見で、看護婦等を困らせることが屢々であります。一旦この病院で手術を受けようと決心して入院した以上、病院を深く信頼し、全部を任せ、その上のことは運命とあつさり考へるのが最も立派と思ひます。

12月24日

▽第七十議會召集
（昭和十二）△皇軍杭州城占領

その日〳〵

○臨機應變の妙用は無念無想の底より來る

『野茨』短歌

○樹々に洩る月の光の小夜更けて明日征く兄の支度手傳ふ

○コスモスの散りたる庭に初霜に見ゐたる今朝はゐろり圍みぬ

○野良歸へるの農夫の鍬に星ふりて明日の豫定を語りつゝゆく

小林房子

○永久にとは思はざれども別るゝは悲しきものよ涙しぼるゝ

金谷清子

連續講談

異說赤穗浪士

別題『異說赤穗義士』『赤穗誠忠録』

［88］

桃川若燕

磐城 木喬

第一の與太郎

『そ情ある事大人も及ばぬ計らひ、只今より愚かな伜を失つた代りに此の太郎吉を養子として家督を相續させる。强つて左樣な事を致さねばその方も離別致すぞ』

『……』

與左衛門、驚いてゐる妻女を促して我子與太郎の衣類を取り出させて、これを太郎吉に着せ、小刀を前半につけ、太郎吉の手を引て白洲に立ち出づる。

白洲の方では名主初め村方の者が、一刻も早く太郎吉の死骸を貰ひ受けて、菩提寺に葬つてやりたいと騷いでゐる。

ところへ靜かに出て來た與左衛門。

『名主源右衛門始め組合の者一同──』

『へエ』

『今日の次第を承はれば伜與太郎へ對し太郎吉と申す者無禮を働き依つて無禮討にされたとの事、それに相違ないか』

『ハア太郎吉が無禮討にされた──オイ治郎兵衛どん、さう云つたな』

『ウン』

『イエ違つて居ります、太郎吉が若樣を殺しましたんで──』

『默れ、伜は斯くの通り無事である、殺害致したとは何事だ、太郎吉を無禮討に致したに相違ない、面を上げろ、伜與太郎は此の通り無事でゐる』

『そんな事はございません』

『どうも判らぬ奴だの。これ面を上げろ、源右衛門』

云はれて名主源右衛門顔を上げて見ると驚いた、正面には神崎與左衛門、それに並んで太郎吉が衣服を着替ね差添を前半に手挾んで控へてゐる。

『オヤ／＼これはどうしたんだ』

『コレ／＼騷いではならぬ、これにゐるは予の伜に相違ない、向ふに死骸になつてゐるは太郎吉である。どうぢや判つたか』

『へエ成程、それで判りました。太郎吉が與太郎、若樣が太郎吉で──』

『控へろ、就いては太郎吉と申す者に一人の老婆があつて難儀致す由、今日より太郎吉の老婆は斯く申す與左衛門が引き取つて遣すぞ、殊に太郎吉の死骸は當方にて良しなに扱ひ致すから左樣心得ろ』

『へエ──』

『伜、一同に言葉をかけて遣はせ──』

『畏まりました。名主源右衛門』

『へエ──』

『大きに御苦勞であつた』

『恐れ入りました』

『一同の者、事柄が相判つたら早々引取るやう致せ』

『有難う存じます』

と一同の者嬉し涙で奉行所を出たが名主の源右衛門は聲を立てゝ泣いた。

『ア、何と云ふ有難いお奉行樣だ。我子の事は仰しやらず孝行者の太郎吉を助けて下さる』

さて太郎吉は與太郎と名乘つて文武の道を納めた。非常に怜悧な質で、遂に與左衛門が老年になつたので與太郎は與五郎と改めて其側に仕へることになつた。

智惠深く此の神崎與五郎が大石の旨を對して堀部安兵衛の逸るのを押へ、がくうしても云ふ事を肯かなのは江戸在中の急進派潮田又之丞。

『神崎氏、大石殿の仰せ一應は御尤もでござるが、一度その行狀を顧みてその說くところを眞と思はれるが、今日は祇園明日は島原と遊び暮らし我々同志の苦心何と思ひ居らるゝか、左樣な統首の命を待つよりも我々十二人の同志が血盟し吉良邸へ乘込み、一擧義央の白髮首を上げやうではござらぬか』

小兒科・內科
酒井醫院
入院隨意
平市南町（電五五番）
醫學博士酒井保

★ホシ ミクローゼ
1家に1個常備の
胃腸・強生ピルツ劑

★H クスリはホシ

健康を生産する

ミクローゼは、酵母以上に生存力が強靭で、消化酵素を多量に産生する日本固有のピルツ（有効菌）と、アミノ酸・ビタミンを始め各種榮養素とを豊富に含む胃腸強生劑であります。故に、食慾を旺盛にし、正確・自然な便通をもたらし、榮養の吸收、附加を助け、逞しい健康を生産するのであります。

醫學博士・豊島豊次郎先生創製
一ヶ月分・三六〇錠 一圓五〇錢

特に、左記症狀の方々に好適
各種胃腸疾患
食慾不振
常習便秘
結核諸症
脚氣諸症
腎臓炎
姙婦榮養補強

能眠
能便
能食
能働
HOSHI MICROSE
ミクローゼ

東京・五反田
★ 星製藥株式會社

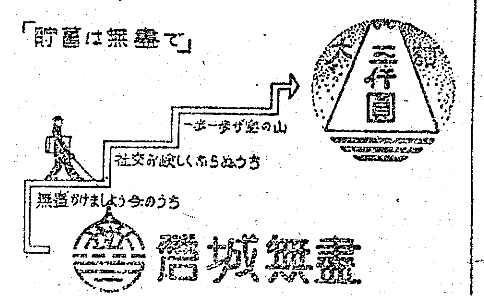
全國有名藥店にあり

西村屋藥局

電話三番です

藥品百貨と
寫眞機材料の店です

平市本町二丁目
西村屋藥局



「貯蓄は無盡で」

三仟圓
一歩一歩ず宝の山
社交が狭しくならぬうち
無盡かけましよう今のうち

磐城無盡

節の素
專賣特許105912號

「榮養に富み──最も經濟的な」
台所に必要の『調味料』
二五〇瓦入定價六十八錢

◇味と榮養價値 味は鰹節と變りなくヴイタミン、カルシューム、沃度を多量に含んだ榮養味
◇原料 新鮮な鰮の骨肉共に粉末にしたものに海草類を加へ、完全に脱脂精製したもので風味最も佳良な調味料
◇用途 鰹節や削り節の代用品とし、又は味の素の代用も可（保存五年保證）
◇經濟的價値 鰹節三圓に對し十五錢の割合 煎子一圓三、四十錢に對し十五錢の割合で充分足る
◇主なる納品先 日本赤十字社・陸軍偕行社 陸海軍々需部其の他

特約店
平市鍛冶町 佐藤陽傳商店
鎌田町 菅野勘助商店
賣店土橋 鹽屋商店 電話十番

內科、産科
婦人科
▽一般診療に應ず△
▽病室完備入院應需△
久保醫院
小名濱町 電話二二番

移轉廣告
外科專門
野村外科
手術室完備
移轉先 小名濱町古港 元津村屋跡

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防銹塗料
船底塗料、屋根塗料
黒板塗料、
一手販賣
（イ）磐城水産工業株式會社
小名濱町築港內 電一四四

能率的な自轉車
銃前銃後は一人〱の働き！
各種自轉車販賣修繕
[illegible]野輪店
……修膳は念入懇切に且つ迅速に御勤め致します……
小名濱本町四〇

皇紀二千六百年記念 表彰式擧行

平市の奉祝會盛况裡に閉會

既報、平市の皇紀二千六百年奉祝記念節婦、自治、社會、教育功勞者關係二百九十四名表彰式は今二十三日午後一時から市公會堂で擧行、參會者は晴れの表彰を受ける約三百名の功勞者と官公衙長、銀行、會社長等多數列席、定刻伊藤市助役開會の挨拶を述べ

橿原神宮、宮城遙拜、國歌齊唱、二千六百年紀元節に賜りたる勅語捧讀、十一月十日奉祝式典に賜りたる勅語捧讀、

次いで青沼市長式辭を述べ市會議員二十七名、區長二十三名、區長代理十五名、方面委員十名、衛生區長十二名、警防團幹部五名、納税組合長六十五名、市吏員三十一名、商業學校職員十八名、小學校職員六十一名、靑年團二名、學校醫六名、市及學校傭員十二名、節婦二名それ〲表彰來賓の祝辭があり、野崎市會議長表彰者一同を代表して答辭を述べ、萬歳三唱式を閉じそれから來會者一同茶菓で聖紀奉祝會を開き盛會裡に散會した

式辭

本日皇太子殿下御誕辰の佳日をトし來賓各位の御來臨を辱ふし茲に光輝ある紀元二千六百年を記念し表彰式を行ひまするることは寔に欣幸とする所であります。

今春紀元の佳節に方り優渥なる詔書を渙發あらせられ内外重大時局に際し萬民翼賛の道を昭示し給はりましたことは眞に恐懼感激の極みでありまして日夜　聖旨に副ひ奉らんことを期して參つたのでありますが、去十一月十日政府主催の式典を宮城外苑に於て畏くも　天皇皇后兩陛下の御親臨を仰ぎ奉り嚴肅に擧行せられ微臣たる小職も本市民を代表し此の輝しき盛典に參列する光榮に浴しましたことは感激の至りに勝ざる所であります、

此の千載一遇とも申すべき佳年に當りまして市制施行以來市制の進展に貢獻せられたる功勞者並に節婦等を表彰致しまするとは洵に喜びに耐へない次第であります、申す迄もなく我が市は市制を施行いたしました直後今次事變勃發いたしました關係上各般の施設に相當困難を來しましたのでありますが各位の御援助により多年の要望たる公會堂の建築を始め商業學校の新築、第四小學校の增築、縣立工業學校の新設、公益質屋、隣保部授産場設置、警防設備の充實強化、其の他道路の改良溝渠の改造等着々内容整備を見て居るのでありますが市制の將來に深く思ひ致すとき世運の進歩發展に伴ひ都市の社會的地位は益々重きを加へ其の使命の大なるものあるに鑑み今後一層努力に俟つものが多いことに存ずる次第であります、

今や時局は益々重大でありまして事變勃發以來既に四年御稜威の下忠勇なる皇軍の勇戰力闘により青史に比なき戰果を收めつゝあるのでありますが現下の國際情勢に處して政府は國家の總力を動員して高度國防國家の体制を確立し聖戰目的完遂に邁進しつゝあるの秋であります、生を此の聖代に享けたる吾等臣民は齊しく悠久二千六百年の昔に想を馳せ　神武天皇の御創業を偲び奉ると共に歷朝相承け洪獻を壯にせられたる祖宗の事績を追慕し愈肇國の精神を昂揚し益和衷協力奉公の誠を致さねばならぬと確信するものであります、

時下向寒の砌各位には益自重自愛市政の發展向上と國運の伸展に貢獻せられ以つて大政翼賛の實を擧げられんことを切望して已まぬ次第であります、

石油共販組合組織 配給機構統制

小賣制度が徹廢されました

石油の配給を圓滑且つ適正を期する目的の下に共販組織を急いでゐた〃平石油共同配給組合〃創立總會は二十二日午前十時から平市公會堂で開き仙台共販川田支社長並に縣石油販賣會社佐藤傳吉社長、柴田支配人等臨席、組合規約制定役員選任の結果平市關内正一氏が理事長に就任配給所を左の如く決定、今後は一般小賣店の石油販賣制度を徹廢、仙台共販、縣石油販賣會社を經由して一元的に配給所で販賣することに成つた、組合加入區域は石城郡、平市及双葉郡富岡以南で業者六十名に達してゐる

◇組合役員

△理事長、關内正一（平）△常任理事、百澤易興（平）同關彰（平）△理事、横山彰介佐藤作平（以上平）佐藤傳吉（福島）飯土井利之亮（富岡）△監事、吉田恭平（湯本）青天目信治郎（勿來）佐藤松之助（植田）

◇配給所

△勿來町、青天目信治郎、同根本商店△植田町、關彰商店△平市、關内正一、關彰商店、横山彰介、ボーキ商店△小名濱町、小名濱鑛油會社、龜井商店、西丸油店、臨港鐵道△湯本町、吉田恭平△四倉町、關彰商店△川前村、横山久治△上遠野村、小澤商店△木戸村、松本正商店△富岡町、飯土井商店

となりぐみを語る （16）

あの街この町

勤勞奉仕で『開墾事業』

第二十四區 お城山常會（上）

舊城趾城山地域は住宅地だけに勤人と云いますか、インテリ階級大部分を占めてゐるため行ふことも凡て規律よく、訓練されてゐる點で學ぶべきところが多いと思はれます、以下投書に依つて、となりぐみ係の調査事項を御報告申上げます

◇

第二十四區城山常會は區長小野氏を常會長に指導系統を一にして銃後奉公、臣道實踐を旨とし色々な事業を行ない大政翼賛の新体制に即應せんとして居ります、現に實行しつゝあり又將來行なはんとする重なることを擧げて見ませう

◇國旗揭揚

毎月興亜奉公日を期し、正午前六時に全戸一戸宛城山會館前に集合、全員注目裡に國旗揭揚式を行ない、次いで南面し宮城遙拜、國歌齊唱、天皇陛下、萬歳を奉唱致しますが參會者は一戸から二、三名出る家庭もありまして毎月興亜奉公日には數百名に達する盛會振りです

◇勤勞奉仕

區内杉平の空地に成つてゐる聖公會建設敷地二反五畝歩及阿部政右エ門氏所有地二反歩を無償で借り受け、今夏八月から十月まで二ヶ月間、各戸一名宛奉仕員が出動開墾し、この畑へ蕎麥及葱の栽培を致しました、二ヶ月間の勞作に依る收穫は蕎麥二俵、葱十五圓を擧げました、このそばと葱の賣却代金で更に麥の種子と肥料を購入目下麥を蒔いて成育を樂しみにして居ります その益金は勿論分配するやうなことはなく、他日常會の有益な方面に使用することに決めてあります

又區民有志の者は松ヶ岡公園内の〃皐月〃林から雜草苅取奉仕作業を行ない、公園の美化を圖る一方岩木橋の改修工事に出役して相當な報酬を貰ひ、この金を防空群の費用に充てるなど余剩勞力を有能に奉仕して居ります（つゞく）

お願ひ

市内の常會で他に範とすべき申合せや活動狀況等、現に實行しつゝある事柄を詳細御寄稿願ひます、（となりぐみ係）

光榮の失明勇士へ

御下賜品傳達式擧行

畏くも皇太后陛下より失明の傷痍軍人へ御下賜に成つた失明者用懷中時計傳達式は既報の如く二十三日午後一時から平市役所會議室で擧行した、光榮に輝く失明勇士は滿洲事變では本縣唯一人、石城郡江名戸田一等兵並に左の二名が、縣から奉持して來平した上塚學務部長よりそれ〲勇士へ傳達式を行たが無上の恩命に浴した三勇士は何れも『眼が開いた思ひです』と感激にむせんでゐる

石城郡江名町出身（滿洲事變爆創失明）
陸軍一等兵　戸田德次郎

石城郡三坂村出身（支那事變出征失明）
陸軍伍長　根本千代吉

相馬郡石神村出身（同）
陸軍一等兵　三島　定信

待望の臨港鐵道 連絡地點調査

近く工事認可指令來る

小名濱臨港鐵道は泉驛との連絡つき次第竣功する迄に工事進展してゐるが連絡工事に對し未だ鐵道省の認可を得ない爲延々となり困憊してゐたところ今二十三日鐵道省及び東鐵局より技師來泉現地調査を施行したので愈々認可の指令近きにありと石川支配人初め從業員は張切つてゐる

歳末年始へかけ 不良酒を一掃

平署で拔打的に檢査斷行

歳末から年始へかけての酒不足につけ込む不良酒を一掃すべく平警察署では既報の如く二十日管内全般に亘つて酒の一齊取締りを實施し卸賣、小賣商、營業者等二百七十一軒から販賣しつゝある酒を押收檢査を實施した處

殆んど水に近いもの、異臭を放つもの等不良酒十八點を擧げこれ等の業者について販賣系統を取調べの上嚴重處罰することに成つた

今回の檢査は十一月の第一回に比較すると相當減少は見てゐるが今後は拔打的に隨時檢査を實施し不良酒を市場から一掃する方針であると

基金造成浪曲大會 未曾有の盛況

來會者三、五〇〇名突破か

二十五日午後三時から平市公會堂に擧行する平授産場增築基金募集浪曲大會は地方空前の大家揃へであり事業の趣旨に一般市民が理解してゐる爲人氣沸騰、二十三日までの會員券賣行きは國婦第一、二、三分會だけで既に二千二百七十枚頒布第四、五の兩分會並に市外各地の賣上げを加へると豫定の三千五百を遙かに突破會場は破れるばかりの盛況を豫想されてゐる

頰刺し洪水で今度は 出荷隔日制實施

氾濫する滯貨を防ぐ苦肉策

既報、鰛漁期に入つて以來頰刺し出荷の洪水に備へ泉驛では輸送の緩和策として出荷の申告制を採用したが氾濫する頰刺しの山を輸送し切れず今度は更に制限を强化、小名濱と江名、豊間を二分して出荷日を定め隔日に受けて山爲す滯貨を防ぐ一方輸送力を增加すべく貨車の增配方を申請してゐる

歳末に際し 遺家族慰問

奇篤な池田龜吉さん

平市田町十九番地池田龜吉さんは歳末の軍人遺家族慰問費の一部へと二十一日金五圓を平市役所に寄附した

暮の田圃に大黒様 中からザク〲銀貨の山

拾つた少年警察へ屆ける

二十二日夕刻平市杉平地内籔の中に陶器の大黒様が捨てゝあつたのを遊戯中の同所松本大一君（八）が發見、拾つて見るとヅツシリ銀貨の入つた貯金箱で其まゝ平署へ屆出た、割ると中から何と五十錢銀貨で二十七圓五十錢が躍り出し花見會計部長を吃驚させた、子供でも持ち出して捨てたかそれとも盜み出したものか未だ屆出がない

平合同貨物 業務開始

好間平の一部統合

平市の一部及好間村の貨物自動車業者を以て組織した平合同トラック運送有限會社創立總會は二十一日午後一時から丸通運輸樓上で開き資本金十二萬五千圓、役員を左の如く決定、丸通運輸内に事務所を置き業務を開始した

△專務取締役社長、鈴木條三郎△取締役野崎滿藏、阿部政右エ門、强口唯七郎△監査役、鈴木與一、鈴木善七郎

神谷村で 記念武道會

石城郡神谷村では二十七日午前十時から二千六百年記念奉祝天覽武道大會に出場した同村柔道五段阿部文平氏の披露を兼ね小學校に武道大會を催す事となつた

煙草代を節約 銃後寄附

平市北川秀彦さん

平市一丁目北川秀彦さんは二十日煙草代を節約した四圓五十錢を銃後奉公會へ寄附した

小名火葬場間 産業道竣功

小名濱町橋本より火葬場に至る産業道路改修工事は三崎組請負の下に本春着工したが愈々竣功し昨二十二日町の檢査を受け引渡した

この産業道路は町營火葬場及び共同墓地豫定地へ通ずる唯一の道路で延長四百八十米、幅員五米四五の堂々たる道路である。

中支に散華

小名濱前橋兵長

小名濱町下町出身前橋三郎兵長は中支戰線に於て十二月六日名譽の戰死を遂げた旨、この程町役場に公電あつた

四倉校增築落成 關係功勞者表彰

四倉小學校の增築落成式は今二十三日午前十時から新校舍前の廣場で擧行されたが當日寄附者及工事功勞者の表彰式を行つた

◇寄附者氏名△國旗塔一基並に掛時計大形一個酒井英吉△衝立二脚四倉町大工組合△植樹四十本豊田美孝△大形鏡一面並に圓卓子一脚新妻タマヨ△床置台一脚四倉町建具組合△タイマイ甲一枚豊田清子△大形本箱一個四倉町左官組合△蓄音機一台鈴木伊三郎△中形鏡一面松崎フジ子△中形倉庫一個佐藤宇三郎△金壹百圓平松茂

◇工事關係表彰者

△工事囑託技術員鵜沼辨治△工事常任委員豊田美孝〃長谷川長太郎△工事委員面川龜之助、外十二名△工事監督員、片寄寅次、永井勇次郎、高崎虎男、渡邊勇

◇一般功勞者表彰

渡邊兵太郎、長谷川嘉平、酒井英吉、鈴木吉之助、伊藤喜孝、小湊賢五郎、小林桝藏、阿部兵三郎、遠藤寅吉門馬倉次郎

◇大工組合表彰

長谷川德松外四名、鈴木忠之助外八名

老母の篤行

苺栽培三十圓寄附

石城郡玉川村小瀧鑛泉渡邊渡氏の老母あんさんは七十五才の老齡に拘らず自宅の空地を利用して苺を栽培、この益金三十圓をソックリ玉川村國防婦人會の皇紀二千六百年記事業費に寄附し同會幹部連もこの好意に感激してゐる

無言の凱旋

中支戰線に勇奮し華々しい名譽の戰死を遂げた小名濱町榮町出身山元榮上等兵の英靈は二十四日午後七時泉驛着列車で無言の凱旋する

四倉町の トラック事故

少女が五十日の重傷

四倉町貨物自動車合同組合運轉手深瀬勇太郎（三一）が二十二日午前十時頃久の濱町方面へ向けトラック運轉四倉町志津地内疾走中紙芝居を見物中の漁夫加谷龜吉次女セイ子（八）が突然横合から飛び出してトラックにはね飛ばされ左大腿中央部を完全骨折し平市渡邊整骨院で手當中であるが全治五十余日を要する重傷を負ふた

無燈火で科料

四倉本町海産商鈴木庄次郎方雇人原榮太郎（三〇）は去る二十日午後八時半頃仲町地内を無燈自轉車で進行中四倉署員に發見せられ三圓の科料に處せられた

小名濱町で 納税組合表彰

小名濱町では二十五日午後一時より小學校講堂に於て納税表彰式並に過般の農産物品評會賞狀授與式を擧行するが當日は六十五納税組合に對し奬勵の金一封宛を贈呈し五ヶ年以上及び十ヶ年勤續納税組合長を表彰する

△沖見町下組中野昇△新川組小野虎太郎△役場組長瀬國三郎（以上五ヶ年以上）△日の出納税組合長藤社庄吉（十ヶ年以上勤續）

天氣豫報

今晩　東の風曇り驟雨模様

明日　東の風曇り小雨後だん〲晴れます

二十日二

滿潮　前[illegible]　後二、三〇

干潮　前四、三〇　後六、四三

舊火曜　新十二月二十四日
十一月二十六日
辛丑
赤口
除
宿芳

▲一白　出來る丈けの働きに安んじ深慾せざること

▲二黒　人事は成るべく手を控へ獨りつゝしむべし

▲三碧　守ることを先にせざれば魔に乘ぜられ易し

▲四綠　守勢をとり表に現れず沈默するが無事の日

▲五黄　座談より進退に窮する程の大事の生ずる日

▲六白　健全なる歩調を取れば急がずとも遂せらる

▲七赤　口をつゝしめば大抵の事は成功すべき吉日

▲八白　他に出でゝの周旋事は不結果に終り易き日

▲九紫　一攫千金を夢る時は屋根もはぎ去らるべし

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢

電話101番
本日より四倉局下電話新設致しました
呉服、洋品商
セメント瓦工業部
西山嘉則
石城郡大浦村上仁井田

病室增築、手術室完備
産科 婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

附屬産院　新設
姙産婦入院随意
産科 婦人科　木村病院
平市新川町　電話一六四番

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主 院長　醫學博士　鈴木定藏
内科 小兒科　院長　鈴木定藏
内臓外科 一般外科 皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科　院長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平
診療時間　毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す（急患は此の限りにあらず）

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町　電話五一三番
高久病院
院長　醫學士　高久忠